

# 謎に包まれた要塞

戦跡を  
訪ねて

2019

## 赤山地下壕跡

館山市

①

館山市の中心部から南西に約3キロ、館山湾に面した海上自衛隊館山基地の南に赤山はあ  
る。その標高61.4の  
高い丘にトンネルを縦  
横に掘って地中要塞が  
築かれた。旧海軍館山  
航空隊の赤山地下壕跡  
だ。現在は年間3万人  
を超える見学者が訪  
れ、地域の「平和教育」  
の拠点となっている  
が、掘り始めた時期や  
狙いといった軍の記録  
は一切残されていない。  
多くの謎に包まれて  
いる地下壕に足を踏  
み入れた。

アーチ状のトンネル  
に入ると、連日の曇さ  
を忘れるひんやりとし  
た別世界。電球が茶褐色  
の壁面を照らす。ツル  
ハンによる素掘りの  
跡がそのまま残してい  
る。天井の真さはおよ  
4メートル。付き添いのガイ  
ドの説明によると、入  
り口近くにある広間は  
ディーゼル発電機を置  
いて発電室として使わ  
れていた。そこから枝

分かれようようにトン  
ネルの回廊が続く。  
並行する3本の主通  
路とそれを網の目状  
に結ぶ連絡通路。総延  
長は約1.6キロとそれ

るが、一般開放されて  
いるのは照明設備が整  
った500メートル部分だ。  
これほど大がかりな  
地下壕でありながら、  
戦後60年あまり、市や

地元の人たちに「中に  
入るのは危ないから」  
と放置された。その間、  
県外出身の2人が地下  
壕の保存に貢献してい  
た。

一人は1960年ご  
ろから壕の入り口に  
「向後種菌研究所」の  
看板を掲げ、約40年間  
も壕内に住み、キノコ  
類を栽培していた向後

精義さん(2001年  
死去)。茨城県出身で、  
旧日本軍の「731部隊」  
(関東軍防疫給水  
部)に所属していたと  
される。もう一人は、  
北海道出身で館山の  
高校で社会科教師を務  
めていた愛沢伸雄さん  
(67)。戦争遺跡の調査  
の一環で90年代初めに  
地下壕に足を踏み入

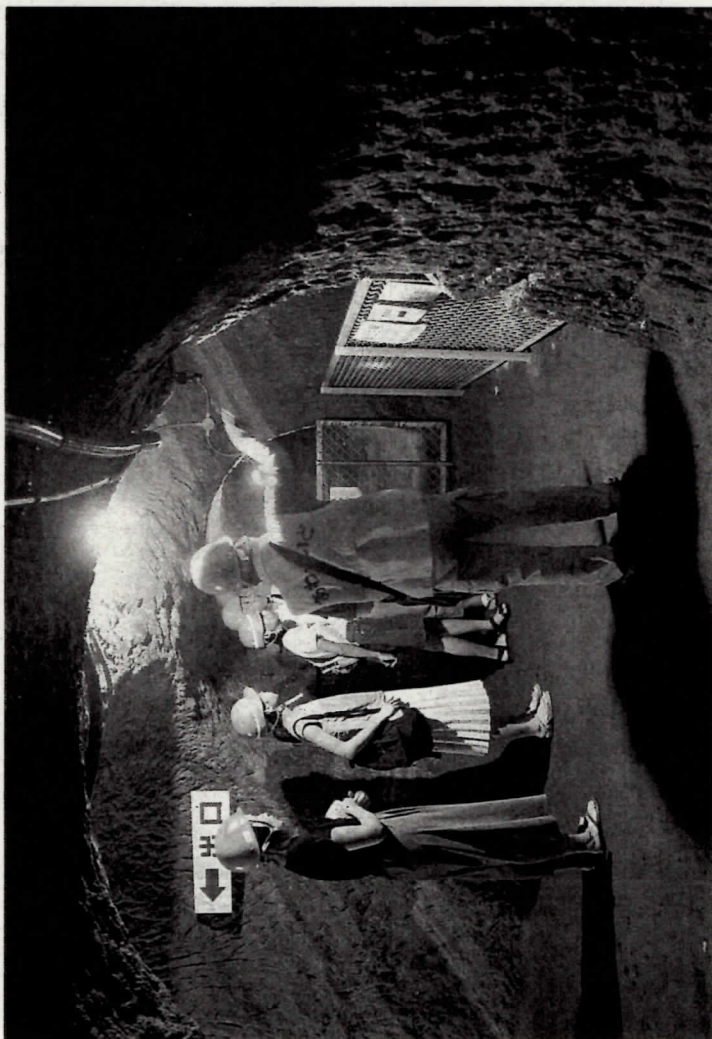
れ、向後さんと出会っ  
た。「最初は勝手に  
入るなと怒られたが、  
向こうも許可を取っ  
ているわけではないか

ら、打ち解けることが  
できた」と振り返る。  
やがて愛沢さんの調  
査によって戦跡として  
の評価が高まり、市は  
02年に壕の内部を初め  
て調査。その3年後に  
史跡に指定した。

現在、NPO「安房  
文化遺跡フォーラム」  
代表を務める愛沢さん  
は「今わかっている赤  
山地下壕跡は全体のほ  
んの一部。道路を隔て  
た東側と旧州崎航空  
隊の隣接地には、より  
大規模な地下壕があ  
る」と指摘する。

「気の遠くなるほどの  
人手と労力をかけた  
であろう赤山地下壕跡。  
軍はどこから大量の  
作業員を集めたのか。ト  
ンネルを出て、夏の暑  
さを感じながら、当時  
の光景を思い浮かべ  
た。」  
【中島章隆】

◇ ◇  
終戦から74年。戦禍  
を体験した人は年々少  
なくなっているが、各  
地に残る戦跡は今も  
戦争の記憶をとどめて  
いる。関東各地の戦跡  
を巡り、苦難の時代を  
追憶する。▶ 随時掲載



地下壕の内部はガイドが案内してくれ、館山市の赤山地下壕で



### アクセス

赤山地下壕跡(館山市宮  
城)へは、JR内房線館山  
駅から日東交通の館山航空隊行きバスに  
乗り、宮城バス下車、徒歩3分。毎月  
第3火曜日休み。入壕料は一般200円、  
小中高生100円。問い合わせは豊津ホ  
ール(0470・24・1911)。